

# ASK ニュース

Vol.0230

2016年12月5日(月)

担当：MS事業部 中嶋

〒460-0002

名古屋市中区丸の内 3-22-21

損保ジャパン日本興亜名古屋ビル 1F

ASK 税理士法人

TEL 052-971-1122 FAX 052-971-4488

## トランザクティブ・メモリー

### はじめに

経営学の分野では、組織も過去の経験から学習して成長していくものとして、組織の記憶力・学習能力が注目されています。組織の記憶力という観点から特に注目されているのが「トランザクティブ・メモリー」という考え方です。

### トランザクティブ・メモリーとは

トランザクティブ・メモリーとは、組織の記憶力に重要なことは、組織全体が何を覚えているかではなく、組織の各メンバーが他のメンバーの「誰が何を知っているか」を知っておくことである、というものです。1980年代半ばにハーバード大学の社会心理学者、ダニエル・ウェグナーが唱えた組織学習に関する概念です。

トランザクティブ・メモリーは、人が複数人いなければ持てないため、組織独自の記憶メカニズムといえます。組織の記憶力を飛躍的に伸ばすためには、トランザクティブ・メモリーをうまく活用することが重要です。

### 知のインデックスカード

そもそも個人が一人で把握できる情報量には限界があります。したがって、100人いる組織で100人全員が同じ情報を知ろうとするのは、効率的ではありません。組織としての記憶力を効率的

に伸ばすためには、組織全体で同じ情報を共有することよりも、「誰が何を知っているか」の情報を共有し、さらに誰もが引き出しやすい状態で共有する必要があります。いわば「知のインデックスカード」とでもいうべきものが組織に浸透している必要があります。

### 専門性と正確性

トランザクティブ・メモリーがより効果的に働くためには、組織のメンバーそれぞれが各分野のスペシャリストとして専門性を深めていること、そして、誰が何を知っているかという「知のインデックスカード」を正しく把握している正確性が重要です。

専門知識をいくら蓄積しても、それが、必要な時にすぐに引き出せなくては意味がありません。

### おわりに

組織の効率や生産性が高めていくためにも、このトランザクティブ・メモリーという考え方はとても有効だと思います。従業員一人一人が「他の人が何を知っているか」を自然に日頃から意識できる組織を目指すの良いのではないのでしょうか。